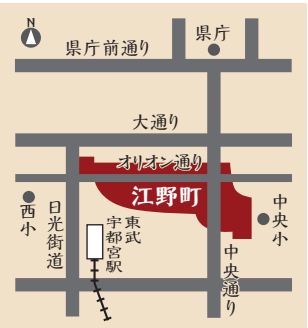
まち紀行

江野町（えのまち）

現在の江野町辺り

古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します

▲祭事は暮らしの一部
◀皆で集まり、話し合う



この付近は、元和５年（１６１９年）、宇都宮城主・本多正純による町割り替えのとき、古い堀を埋めて町場にしたところといわれ、その時「江戸町（えどまち）」と名付けられたのが町名の起こりといわれています。江戸のような粋な町、という意味もあったのではないでしょうか。

江野町にはかつて、芸者が多く住んでいたので、三味線や歌を練習する音を聞きながら通学し、小学校の校庭や駄菓子屋で遊んでいました。

そんな江野町住民の最大のコミュニケーションの場は、何といっても祭事です。天王祭や菊水祭などに参加するのはもちろんですが、昔は、子どもたちだけでも樽（たる）と竹で作ったみこしを担いで近所を回り、お菓子をもらうのが楽しみでした。

ここは商売を営む人が多い町ですので、住民の他に店の経営者も自治会に加わってくれます。そして、住民と店の経営者が共に助け合い、暮らしやすい江野町にしていくことを目指しています。

子どもからお年寄りまで全ての人が安心して暮らし、訪れた人が安全に、ゆっくりと歩いて楽しめるような、人に優しい町にしていきたいと思っています。

江野町自治会 会長
大橋　好守（よしもり） さん